

# 山形県技術士会だより

巻頭言 (知識や技術を社会に還元しよう！)

山形県技術士会会長 本田康夫

## ハイライト

平成18年度秋季現場研修会



今冬は例年になく温暖でしたが、早くも待ちに待った花見の季節となりました。会員の皆様にはそれぞれのお立場で毎日をお元気で過ごしのことと存じます。

昨年は、本会の発足時から18年間もの長い間、会長として会を指導・牽引してこられた土生 平前会長が「山形県科学技術賞」を受賞され、祝賀会を開催致しましたところ大勢の皆さんにご参加頂き、ご祝福頂きました。誠に有り難う御座いました。

この受賞は会にとっても大変名誉で、嬉しいニュースでありました。

ところで、山形県技術士会が発足したのは、昭和63年7月であり、当時は山形県技術士協会と名乗っておりましたが、技術士法の改正に伴って、平成15年技術士会に名称を変更して、今日に至っております。従って、平成18年は、技術士協会の創立から数えて20年の節目の年を迎えることとなります。

この20年の間、私達は会員の増加と、会の知名度の向上、さらに、地域に密着した、地域に役立つ技術士会の構築を目指して努力して参りました。その結果が、創立当時27名であった会員が、現在では100名を越す大所帯にまで成長し、さらに、日頃の技術士活動の成果の一つが指導者であった土生前会長の山形県科学技術賞受賞に結びついたのだらうと思います。

漸く、技術士という名称や、技術士制度への理解が世間的にも多少は広がってきたようですが、会の益々の発展の為に今後とも今まで以上の努力が必要であります。

その為には、今まで以上に、地域に密着した、地域に役立つ技術士活動を行うことが重要であると思っております。幸い、会員の多くは、専門分野においては、一般の方々よりも遙かに深い科学技術に対する知識・技術を持っていると確信しております。

このような、会員の深い知識や技術を郷土に還元することも技術士に課せられた重要な責務の一つであろうと考えます。

今日、「科学技術創造立国」が叫ばれているにも拘わらず、教育の分野だけでなく、世間一般に科学や技術離れが

問題視されております。

私達の知識や技術が、このような傾向の歯止めにも少しでも役立つのであれば、会としても、また個々の技術者一人、一人が何らかの行動を起こす必要があるかと思っております。

2006年、文部科学省では、次代を担うべき優れた若い人材の育成を図る為、サイエンス・コラボ・ティーチャー(「SCOT-スコット」 理科教育支援員)制度を導入しましたが、既に2・3の県で実施され、効果を上げております。山形県では、2005年から子供の科学する心を育む事を目的として、「サイエンス・ナビゲーター」制度が作られました。2007年3月現在約30数名の方がこれに登録し活動しておりますが、まだまだ十分とは言えない状況のようです。

技術士は個人に与えられた資格であります。個人個人が自分の知識や技術を社会に還元する努力が、今必要とされているのではないのでしょうか。このように考えますので、多くの会員がこの制度への登録と活動を期待します。

さらに技術士法が制定されましたのは、昭和32年でありまして、今年が法制定から50年目の年になります。その後、昭和58年、平成12年に法改正が行われ、現在に至っております。

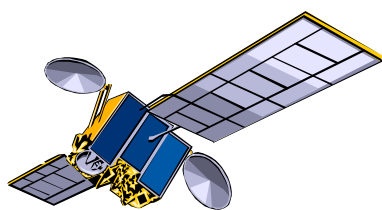
法の制定当時は16部門でしたが、その後、5部門が追加され、現在では、21部門となっております。追加された部門の何れもが、時代の要請に応じて追加されたものですが、中には「原子力・放射線」部門の様に、原子力発電所の事故が引き金になって追加された部門もあり、又、多くの部門では、時代の要請によって名称が変更され、同時に内容が充実されてきました。

これに伴って、本部や各支部では50周年記念の各種の行事を計画しておりますが、私達も出来るだけ多くの行事に参加して、お互いの交流を深め、技術士の責務やあるべき姿を、もう一度初心に返って見つめ直す良い機会ではないかと考えておりますので、機会を捉え、出来るだけ多くの会員が参加されるよう希望します。

(原稿受理 H19. 4月)

### 目次：

巻頭言	1
会長退任のあいさつとお礼	2
技術士会創立20周年記念式典	3
蕎麦談義	3
平成19年度 事業活動計画	4
平成18年度 秋季現場研修会	4
平成19年度 技術士試験	5
新技術士として思うこと	6
話の面白い人、つまらない人	7
お知らせ・編集後記	8



## 会長退任の挨拶とお礼について

土生 胤平 (建設部門/A.P.E.C.Eng/株田村測量設計事務所)

皆さんにはお元気で新しい年をお迎えのことと存じます。そして本年もどうか元気で技術士会のためにお力を貸して下さいますようお願いいたします。さて、些か遅くなりましたが「山形県技術士会だより」の紙上で皆様にご挨拶をするつもりが機会がない為まだ果たしてありませんでしたので改めて紙面を拝借してご挨拶と御礼の言葉を申しあげたいと存じます。

思い起こせば昭和63年第1回の総会を行いました。今暇に浮かんで参りますのは20人足らずの人数で一緒に立ち上げて頂いた方々でございます。それで協会の当面の仕事は一人でも多く技術士を増やす事でしたが、当時宮城を除く東北5県で技術士養成研修会を開いたのは山形県が最初でございました。故佐藤隆元副会長始め鈴木多賀元副会長、本田康夫現会長等の方達が、しっかりした基盤を築き共に苦勞を分かち合いながら技術士協会を育て育てて来た結果、今日の山形県技術士会があったと存じます。

平成14年は本会の将来を左右する重要な年でしたので臨時総会を開きまして地域に根ざした会の骨格を作る必要があったので年2回総会を行い、平成18年7月の総会まで都合20回総会を開きました。その間不肖私が皆様のご推挙により会長の職を汚し、総会の議長を勤めさせて頂き大過なく過ごしまし

たこと、感謝に堪えません。

印象に残るのは発足当時、事業に見合う予算の収入不足から役員の方々よりは何回となく特別会費として頂戴した事や、研修の時田村測量設計の前社長の故田村守氏から多大のご芳志を頂いたりして経営を何とか続けていたが、それを見かねて平成6年、山形県が県の政策と同じ活動をやっているという理由で委託事業に切り替えて貰い翌年から2桁の合格者をだして大層喜んで事、更に平成9年、10周年記念行事をみんなでやり遂げた事、楽しかった現場研修の見学、それから、私事ながら平成10年秋、皆様のお陰で勲五等双光旭日章を拝受した折、いとも盛大な祝賀会を催して頂いた事、平成12年技術士会会長賞を貰った事、そして昨年の11月、県科学技術賞を受賞に際し、またまた祝賀会を開いて頂いた事など等思い出はつきません。只ただ感謝と感激の極みでございます。

私、思いますのは個人が榮譽を受けるという事は、所属する機関がありそして対象となる団体がなければ叶いません。その意味では私の榮譽は私個人のみならず皆様山形県技術士会のもの、山形県民のものと言えるのではないかと思います。全国的にみて技術士の社会的認知が今ひとつという現在、昨年秋の受賞はいち早く山形県が「技術士」の社会的存在を顕彰したものと

考えられ山形県技術士会にとっても、日本技術士会にとっても誠に意義深いものがあったと存じます。科学技術の分野は極めて広いので、皆様が日ごろ従事している業績も何等かのきっかけで認められ、受賞の対称になるのではと存じます。どうか皆様には本田新会長を盛り立てながら、技術士会の周知に尽くされますようお願い致しましてご挨拶と御礼の言葉と致します。有難うございました。

(原稿受理 H19.1月)

発足当時二十数名の技術士会員から、現在100名を越す山形県技術士会に育て上げた土生前会長の功績は、大変偉大なものです。



## 山形県技術士会創立20周年記念式典のご案内

事務局より

当技術士会も、お蔭様で20周年を迎えることに相成りました。つきましては、下記により創立20周年記念式典を催し、当会のあゆみの節目にしたいと存じますので、ご臨席下さいますようお願い申し上げます。尚、創立20周年記念式典のご案内は、再度会員の皆様に事務局より郵送させていただきます。

日 時：平成19年7月6日（金）

定時総会 13：00～13：50  
講演会 14：00～15：40  
式典 16：00～16：50  
祝賀会 17：00～19：00

場 所：山形グランドホテル  
山形市本町1-7-42  
TEL 023-641-2621

照会先：山形県技術士会  
山形市松波4-12-3  
㈱田村測量設計事務所内  
TEL 023-642-6644

創立20周年記念事業実行委員会

名誉実行委員長：土生 隼平

実行委員長：本田 康夫

総括委員会：本田康夫、安彦宏人、三森和裕、須藤勇一、上村裕司、湯澤洋一郎、井上憲治、小山田孝一

式典委員会：須藤勇一、丸山修、小島一二三、太田勝之、佐藤達弥

記念誌委員会：上村裕司、秋山純一、豊島良一、井上憲治、宍戸道明、梅津齋、寒河江敬

研修委員会：湯澤洋一郎、樽石良一、有地裕之、河内功、大場伸一、中村光作、東海林栄寿

事務局：小山田孝一、井上憲治、庄司智博

記念講演会は、  
東北公益文化大学学長  
小松 隆二氏  
日本技術士会副会長  
永田 一良氏  
お二方を予定しております。

## 蕎麦談義

井上 憲治（建設部門）

私のそば行脚はいつから始まったのだろう。たしか本格的には「もがみがわそば処百選」(昭和62年東北建設協会編)を見てからだと思う。最初は山形市内の、そば屋の若手で構成している「山形蕎麦研究会」の看板のある店からスタートした。研究会会員は今や若手ではないが、山形そばの普及に果たした役割は大きいと思う。

それから県内各地のそば店を訪ねて20年、その数は200店を超えた。宮城県等の人達に山形そばを紹介し、美味しかったと言われれば大変嬉しい。県外の人がびっくりするのが、山形の人から一寸そば食べに行こうと誘われて、すぐ近くのそば屋かと思ったら、車で30分もかかる所に平気で行くということをよく聞く。これは全国唯一のソバリエ認定制度とともに、そば文化の誇れる県民性の一つかも知れない。それと自宅を開放してやってるそば屋が多いのも特筆ものである。また山形県のそばは、一軒一軒違うところが特徴と言うけれど、正にその通りで同じそばには当たったことがない。太め、細め、硬め、軟め、十割、十一、二八、更級と千差万別である。私は中細が好きであるが、村山市の「あらかそば」のよ

うな太目でそばの香りがするの好きである。概して山形のそばは、長野等そばどころと言われる各地に比較して、太目で非常に強いコシの店が多いのが特徴的で、今後ともそれを売り物にして全国から誘客し、観光に一役買って欲しいと期待している。

そば好きが高じて7年前そば小屋を作り、時々手打ちそばを楽しんでいる。食べる人がいないと張り合いがなく、孫達があると一生懸命である。そば作りのノウハウを教えてくれた自宅近くの「茂三郎」白鷹町の「千利庵」の店主には感謝している。

訪問するそば屋で「天童そば道楽36人衆」を主宰している辻輝彦さんの話題が時々出るが、私も同僚で周知の辻さんなので嬉しく思う。

何といっても手打ちそばの醍醐味は、口に入ったときの歯ざわりと香りである。乾麺と違うのは、切り口が四角であることで、その角が舌に当たり食するのが何ともいえない。そばつゆと合いつての感触であるから、本当にうまいそばというのは個人差があって難しい。もうひとつそば屋のこだわりは、そば湯を出してくれるタイミングである。そばと一緒に持ってこられるとガッカリ、食べ終

わるころ、熱いそば湯を持ってきてくれれば気配りを感じ最高である。それから、そばつゆをそばチョコにざっぷり持ってくる店も好きになれない。食後そば湯を飲む時、余りすぎてしょっぱくてどうしようもない。

私の勝手にわがままなそば談義で失礼。そばは身体に良いといひます。皆さんも大いに食べて健康管理に努めましょう。山形のそばを愛してくれた杉浦日向子さん（江戸風俗研究家）も、天国で山形のそばを懐かしんでいる事でしょう。

(原稿受理 H19.2月)



## 平成19年度 事業活動計画表

主な項目\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
本 会	1 役員会 2 定時総会 3 交流会議 4 事務局会議													
	総務部会													
	企画広報													
	技術部会													
	東北支部													

## 平成18年度秋季現場研修会

湯澤 洋一郎

平成18年度秋季研修は、つくば市にある国土交通省国土技術政策総合研究所（以下「国総研」）と独立行政法人土木研究所（以下「土研」）の視察を行いました。13時半に現地に到着した一行10名は、国総研下水道部長を表敬訪問した後、道路研究施設、大型振動実験施設、ダム水利実験施設、管路模型実験施設、構造物実験施設を視察しました。

## 道路研究施設

1周6キロの試験走路は、走行条件を変化させ自動車の走行に及ぼす影響を調査することができます。走路南端は100キロバンク、北端は120キロバンクになっており、設定スピードで進入すると、重力と遠心力が完全につり合い、ます。国総研のマイクロバスで実際に走行体験させていただきました。予想以上の傾きにみんな驚きました。

## 大型振動施設

3次元大型振動台は、大規模地震時における振動を再現することにより、地震および各種土木構造物の耐震性を調査・研究するための実験装置です。阪神淡路大震災の1.5倍規模の地震が再現できます。

## 構造物実験施設

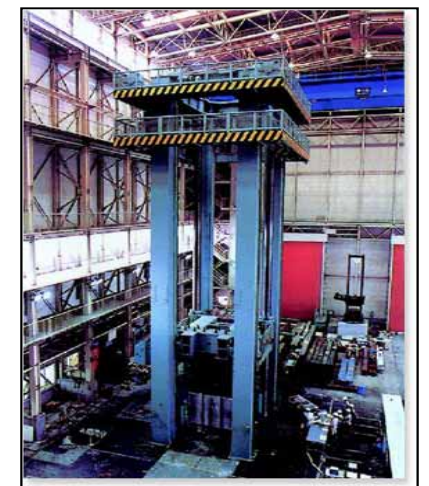
大型構造部材万能試験機は、最大高さ15m、最大スパン30m、最大幅3mの供試体に対し、圧縮30MN（3千トン）引張10MNの載荷力をかけることができます。国道7号（鶴岡市温海）の塩害橋の試験が行なわれ、その残骸が残っていました。塩害橋を試験機にセットし補強を取り除いたところ、自重で崩壊したとのこと。同じ時代の構造物は一斉に更新時期を迎えており、中には崩壊寸前のもも相当数あるのではないかという不安を感じました。

## 意見交換会

夜6時より、国総研の吉田主任研究官にご準備いただいた居酒屋で、国総研・土研の研究員7名と懇親会を行ないました。技術の話に花が咲き、それぞれの仕事や研究を披露し合いとても盛り上がりました。ほとんどがそのまま2次会まで流れ、楽しい時間を過ごさせていただきました。

## オブショナルツアー

翌日は、国土地理院、航空宇宙研究所、産業総合研究所地質館を見学し、つくばを後にしました。



## 新しい技術士試験方法と平成19年度技術士試験スケジュール

小山田 孝一

改正の経緯

平成12年度の技術士法改正に伴う試験制度の変更が平成15年度に完全実施され2年経過したことから「制度検討作業委員会」の設置が決定され、検討を行なって改正を行うことが適当との結論に至った。

改正する背景及び狙い

技術士の受験者が大幅に減ったまま  
欧米と対比すると技術士数の増加が文科省の課題  
受験者数増加のため、負担になっている論文記述量を減らす

第二次試験の改正点

選択科目 - 1 廃止  
受験者の負担軽減のため筆記試験から廃止  
筆記試験合格者は、技術的体験論文を口頭試験の一部として提出  
論文記述量は、図表を含め、3,000字以内、A4用紙2枚以内

選択科目 - 2 - 1  
問題の種類は、選択科目に関する「一般的専門知識」から「専門知識と応用能力」に変更  
試験方法は、記述式で600字6枚以内(現行と同じ)、解答時間は3時間30分

必須試験 - 1 廃止  
第一次試験と重複を避けるため、五肢択一問題は、廃止

必須試験 - 2 - 1  
問題の種類は、技術部門全般にわたる「一般的専門知識」から「論理的考察力と課題解決能力」に変更  
試験方法は、記述式で600字3枚以内(現行と同じ)、解答時間は2時間30分

口頭試験  
試問事項 は、「受験者の技術的体験と中心とする経歴の内容と応

用能力(筆記試験における1-1の答案と業務経歴により諮問)から受験者の技術的体験と中心とする経歴の内容と応用能力(技術的体験論文を口頭試験前に提出させ、論文と業務経歴により諮問)に変更  
試問事項 は、必須科目及び選択科目に関する技術士として必要な専門知識及び見識(現行と同じ)  
試問事項 は、技術士として適格性及び一般的知識(現行と同じ)  
諮問時間は、30分から45分に延長

第一次試験の改正点

平成17年度から実施している。

第二次試験のスケジュール

受験申込書の配布  
07年4月6日～  
受験申込受付期間  
郵送及び窓口  
07年4月24日～5月11日  
インターネット  
07年4月6日～5月8日  
筆記試験の日時  
07年8月5日(日)9:00～17:00  
筆記試験の合格発表  
07年10月31日 日経コンストラクションより  
技術的体験論文の提出期限  
07年11月16日 日経コンストラクションより  
口頭試験の日時  
07年12月～08年1月の1日  
9:00～17:30  
口頭試験の合格発表  
08年3月 本人に合格証の送付と官報での広告

第一次試験のスケジュール

受験申込書の配布  
07年6月1日～  
受験申込受付期間

郵送及び窓口

07年6月25日～7月9日

インターネット

07年6月1日～7月6日

試験の日時

07年10月8日(月・祝日)

9:00～17:00

試験の合格発表

07年12月 本人に合格証の

送付と官報での広告

(原稿受理 H19.5月)



・専門知識の深さ、技術的体験を問う問題は、筆記試験から廃止し、その内容は口頭試験で重点的に問う。

・総合技術監理部門以外は、必須科目の試験から五肢択一の問題が廃止。

新技術士として思うこと 有限会社 奥田測量設計 岡部 範雄 (建設部門 河川砂防及び海岸・海洋)

### 現在の心境

技術士試験(8月上旬)に向け学習してきたこれまでの日々を想うとき、ノルマから開放され自由を得た学生のような心境です。また、技術士としての抱負を、いよいよ、具体化していかなければならないと思っています。

さらに、技術士としての自覚(体制)を整えていく必要も感じています。

今回の「寄稿」を機に、技術士としての今後の取り組み方を考えていきたいと思えます。

### 自分を取巻く状況・環境

私の住む地域は、農業情勢の悪化から離農や人口流出が進み、急速に少子高齢化が進んでいます。また、公共事業の削減が、雇用を減少させ関連事業所の撤退・廃業も誘発しています。

残念ながら、私の知人で、優秀な技術士の方も、この地域に専門的技術の需要が見込めないことから、県外へ転職を余儀なくされたと伺いました。

地方では、大都市圏と違い、深刻な経済の低迷が続いており、各種調査以上に地域間格差が拡大しているように感じています。

一方、鶴岡では、近年、藤沢周平作品の映画化により全国的に注目され、「観光」が見直されています。また、米沢においても、2009年のNHK大河ドラマが城下町米沢の基礎を築いた上杉家の重臣「直江兼続」を主人公にした「天地人」に決まり、地域の活性化が期待されます。

このような状況・環境の中で、新技術士の立場で何ができるか、以下に述べさせていただきます。

### 新技術士として何ができるか

技術士法第1章第1条の条文には、「この法律は技術士等の資格を定め、その業務の適正を図り、もって科学技術の向上と国民経済の発展に資することを目的とする。」と定めてある。この法律が目的とする2つ方向について、技術士として何をなすべきか考えてみたい。

### 「科学技術の向上」の視点

私の専門分野である防災分野でも「技術革新」がめざましく、多くの成果を發揮

しています。しかし、まだまだ自然の驚異に対し万全とはいえない状況です。

防災分野のハード対策の整備率が、いまだに、2割程度の現状から、今後も莫大な資金の投入が予想されます。

今後の投資的経費の抑制傾向を考えた場合、発想を変え、生命の救済に限った対策に防災の重点を移す方策も有効と考えます。

また、その災害復旧も費用対効果を考え、「原形復旧主体」から「機能回復主体」に視点を変え、既存ストックの再評価を行い、造らない公共事業も選択肢として考えられます。既存ストックの有効性の評価や機能の継続を総合的に考える「アセットマネジメント」について、今後は重要になると考えます。

新技術士として、上記を念頭におき社会資本の再生整備の一翼を担いたいと思えます。

### 「国民経済の発展」の視点

まず、建設技術者が、社会インフラ(道路ネットワークや防災施設)を整備してきたことで、流通や医療など多くの高度なサービスを楽しむ環境を実現させてきたことを認識すべきと考えます。

これまでの社会資本整備は大都市に偏り、国土の均衡ある発展を損ねてきた感があります。地域の人口減少・衰退の歯止めには、まだまだ社会インフラの整備が有効と考えられます。

一方で、国の財源の限界を考えた場合、「地域独自の魅力の発掘」の自助努力も必要と考えます。大都市圏のような経済発展やグローバル化が、経済規模や高度な技術力不足で、実現できないとすれば地方でなければできないものを見つけ出す努力が必要と感じます。例えば「観光立国」や「食の王国」などといった地方ならではの材料を磨くことも必要であるでしょう。

他の地域にないこの地域独自の魅力(人、文化、自然、食)を発掘・アピールして移動(流入)人口の増加をはかり経済を活性化する方策もあります。建設部門技術士として、観光・人的交流などのインフラ整備(ハード対策)に対し、専門分野

を活かして支援していければと思っています。

### 今後の取組み

技術士倫理要綱の中の「専門技術の権威」(技術士は、つねに専門技術の向上に努め、技術的良心に基づいて行動する。また、自己の専門外の業務あるいは確信のない業務には、たずさわらない。)の意味するところについて、常に考えていかなければならないと感じています。

幸い、私は、山形県技術士会や鶴岡地域の技術士の皆さんとの交流を通して、専門以外の知識を得る機会に恵まれている。

今後も、さらに、会員の皆さんとの交流を大切にしていき、技術士として足りない分野についても知識を深めたいと思っています。

また、「日常の業務」を通じて、発注者や市民などと業務の「課題を共有」し、一つ一つ課題を解決していくことで「信頼」を得ていきたいものです。

さらに、地域に住む技術士として、その地域の既存ストックのアセットマネジメントまでトータルに考えた提案を行い、その成果を得て、「地域社会から信頼されるパートナー」を目指していきたいと想っております。

以上  
(原稿受理 H19.5月)



## 話の面白いひと、つまらない人

豊島 良一

言うまでもなく日本人は、謙虚・謙遜を旨とする民族である。出過ぎない態度、へりくだったものの言い方など、たとえ心の中に満々たる自信を持ちながらも口を開けば「私ごときが」と、へりくだる人種である。私が先日読んだ本の中に、このような日本人の特異な言葉文化をとらえ、話が面白い人と話がつまらない人を、大変面白くまとめられていた文章があり、紹介することとする。

## 話がつまらない人のタイプ

鈍感人間タイプ（場の空気が読めないのか？）

小泉元首相が発言して話題となった“鈍感力”のことではない。話のつまらない人というのは、「場の空気を感ずる感性が鈍い人」と言い換えてもいい。感性の鋭い人なら、場の空気がちょっと白けたと感じたら、自分が三枚目となって場が和むことを言うだろうし、反対に空気が過熱している時には、多少控えめに成り行きを見守るものである。

アナウンサータイプ（紋切り型の話は退屈だ！）

面白い話というのは、場に合った話をいかにしゃべるかが勝負である。紋切り型にはまった話を延々続ける人がいるが、聞かされる方はつまらない。

パーソナル広報タイプ（そんなに自分のイメージが大切か！）

このタイプは自分の弱みや本音を出していないから、なかなか親しみを持たれない。会話というのは、相手から思いつけない返球が戻ってくることで、興味や好奇心が刺激されて弾んでいくものである。

ナルシストタイプ（自慢話は聞きたくない！）

人間は自慢の動物で、ほめられれば嬉しいし、自分の自慢は語りたい。でも、知性と教養がある人は、自慢したいけれどグッと我慢するものである。

バッドタイミングタイプ（間が悪い話ばかりするなよ！）

相手の状況を聞かない、見ない、見えない人。真面目な議論をしている時に茶化す人。

間の悪い人というのは、話がつまらない以前に誰とも話をしてもらえなくなる。

馬耳東風タイプ（人の話をもう少し聞けよ！）

誰かがしゃべり終わっていないにもかかわらず、自分が知っていることや何か引っかかったことがあると、途中からすぐ話を取ってしまう人。スキあらば自分主導の話に持ってゆこうというタイプは、自分をアピールすることに終始する。日本人は、なかなかアピールすることは苦手で、アピール自体は悪い事ではないが、物怖じしないことと横暴は違う。

ネガティブタイプ（最後になって気の滅入ることを言うなよ！）

会議などで、意見が活発に出ている時に、必ずマイナス点を指摘して水をさす人。これでは、「議論が出尽くしましたが、最初からやりなおしましょう」と言っているのと同じこと。自分の意見を言う機会をジ・ツとうかがっているから、余計タチが悪い。

浪曲しゃべりタイプ

前の話と重複しているようが、時間がおしているようが、おかまいなしに自分の用意してきた話を延々とする人。

自分の周りの人を見ると、“話のつまらない人”をよく見かける。もしかして、自分自身もそうかもしれない。自分の会話の仕方について、上記に該当する箇所がないかチェックする必要があると私自身感じた。では、話が面白い人とは、

話の面白い人

“キャッチフレーズ作り”のうまい人は記憶に残る。

わかりやすい言葉を使えば、たとえ“ボキャ貧”でも人には伝わる  
毒舌に愛嬌を混ぜる人

「嘘つき」は、話がうまい。おくまで人を喜ばせるための嘘は、話のテクニック。

会話の「雰囲気・温度」を大切に。

自分のウィークポイントをうまく語れ

使えるネタは、自分のアンテナに引っかかった記事から

例えば 関連で、1999年9月の東海村の臨界事故については、様々なニュースが報道された。その中でも、まだ臨界状態にあった溶解炉の冷却水を抜きにいったJOCの社員のほとんどが、三十代後半の中間管理職だったという。臨海状態が収まっていない危険な場所での作業は、誰だってやりたくはない。管理職以上はやるわけがないし、若手の社員は技術的に未熟か、命の危険を感じて断るかもしれない。だれもがやりたがらない仕事を結局やるのは中間管理職になる。もちろん、これは笑話ではなく、相も変わらぬ日本企業の体質を感じるものである。

他人との会話では、うまく表現出来なかったばかりに自分の気持ちを相手に伝えられなかったり、押し付けがましいしゃべりをしてしまったために相手に悪感情を持たれてしまったり、難しいものである。中には雄弁ではないけれど一言に含蓄があって、心にストレートに響いてくる話し方をされる人もいる。技術士は高度な技術屋といえども、相手に受け入れられてこそ、所有する技術が生かされる職業であると思う。そのような意味で、話す事の重要性を痛感した次第である。

（原稿受理 H19.5月）





山形県技術士会

## 豊かな地域社会の創造に技術士の活用を

山形市松波四丁目12-3  
 (榎田村測量設計事務所内)

電話 023(642)6644  
 Fax 023(642)6654

### 山形県技術士会の趣旨

山形県技術士会は、会員の品位と資質を向上し、高度化、総合化等が進展する近時の科学技術に関する業務を行う者として、名実ともに社会的地位を保つよう、会員相互の連絡・協力・研修等を通して、技術者の指導・育成、技術士業務の普及・啓発を行うことを目的としています。

### 山形県技術士会の事業活動

- (1) 技術士要覧、会員技術士名簿の発行及び技術士受験研修会、講演会などを開催し、技術士制度並びに技術士資格の活用・普及・啓発、その他の事業を行っています。
- (2) 技術士の社会的地位向上のための活動及び各種情報の提供を行っています。
- (3) 現地見学会や会員研修等を通して、会員相互の技術の向上、啓発、研修に関する事業を行っています。
- (4) 会員、社団法人日本技術士会並びに同会東北支部との連絡と協力に関する事業を行っています。
- (5) 各種講習会、セミナー等への講師派遣及び各種分野の技術指導に関する事業を行っています。

#### お知らせ 推薦図書

「環境ビジネスのターゲットは中国・巨大市場」  
 青山 周 著

内容  
 急速に発展する中国だが、いま水質汚濁、大気汚染等、環境問題がクローズアップされている。本書は、日本企業が持つ環境技術をいかに新しい市場で生かすか、その方策を示す。

定価 1,575円 日本工業新聞社

### 編集後記



鶴岡市赤川堤防の満開の桜  
 (H19年4月24日撮影)

写真は、今年春の赤川堤防沿いの桜並木です。あまりにも見事な満開の桜の光景に感動するとともに、このような美しい風景を未来に残していくためにも、地球環境保護の重要性を痛感した次第です。

深刻化する地球温暖化を食い止めるため日本政府は2050年まで世界全体の温室効果ガス排出量を現状より半減させるとの長期的な削減目標を、6月にドイツで開く主要国首脳会議（ハイリゲンダム・サミット）に提案する方針を固めたそうです。この目標が達成できれば、気温上昇は産業革命前に比べて2割程度にとどまり、温暖化の被害を最小限に抑えることが可能になるとのことです。

しかし、日本国内の温室効果ガスの排出量は増え続けており、今後、どれ

だけ効果的で具体的な排出削減策を打ち出せるかが課題となっています。

温室効果ガス削減策で有望視されている風力発電についても、乱立による景勝地の景観障害、補助金目当ての風力発電ビジネス、リサイクル不可能な駆体問題など、様々な問題が提起されており、一口に地球環境を守るとは言ってもなかなか大変なのが現実のようです。

しかし、何もしなければ何も変わらないわけで、一人一人が社会の一員、地球号の一員という意識をしっかりと持ち、出来る限りの省エネを実践していくことが大事だと思います。私事ながら、数年前からスーパーにはマイ・バッグを持たされています。